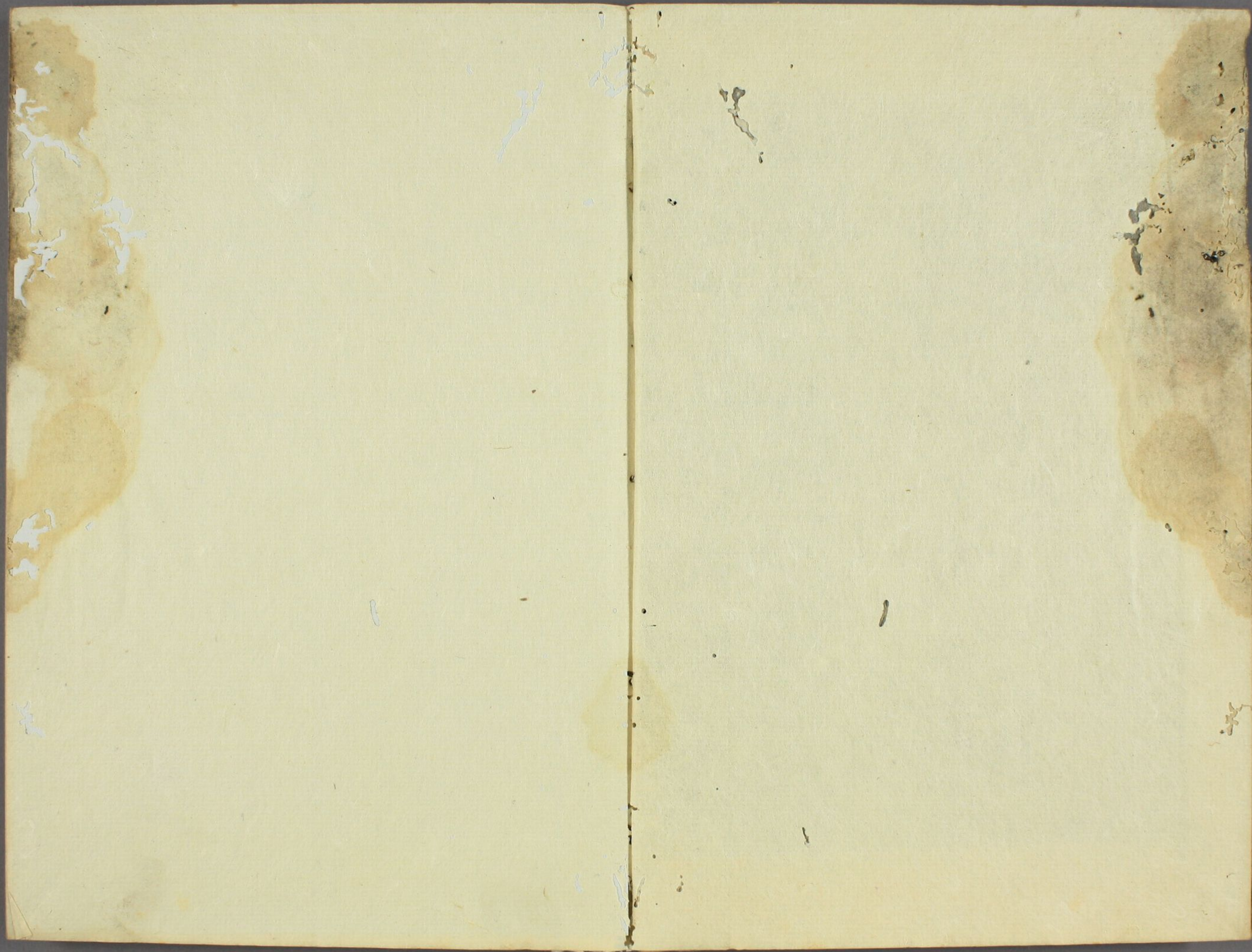


沈氏藏書

三





池乃深房^{ハコ}其^ミ乃^ノ五

○^ニ后光^{コウ}院^{イン}

九十九代の帝を^シ謂^{イハ}譯^{ヤク}源^{ゲン}仁^ニと^シ中^{ナカ}なる^ニ也^{ナリ}院^{イン}乃^ノ
 二^ニ乃^ノこ^コし^シ年^{ネン}も^モ先^{セン}帝^{テイ}一^{イチ}川^{カハ}取^{トル}獲^{ツク}の^ノ取^{トル}乃^ノあ^ハん^ンお^ウじ
 ま^ニ凡^{ソロ}廣^{コウ}義^ギの^ノ院^{イン}い^ハう^ウあ^ハい^イう^ウせ^セを^ヲ後^{コト}ひ^ヒて^テ附^{ツキ}光^{コウ}の^ノ
 年^{ネン}・あ^ハつ^ツ中^{ナカ}を^ヲを^ヲあ^ハひ^ヒて^テ・六^{ロク}内^{ナイ}の^ノ世^セの^ノく^クの^ノ院^{イン}
 命^{メイ}さ^サこ^コい^イさ^サる^ルも^モ付^{ツキ}て^テさ^サく^クき^キ院^{イン}に^ニ先^{セン}帝^{テイ}より^{ヨリ}
 ら^ラ初^{ハジメ}に^ニ甘^{カン}方^{ホウ}乃^ノ子^シを^ヲ遊^{ユウ}び^ヒせ^セり^リ也^{ナリ}甘^{カン}方^{ホウ}乃^ノ上^ノ又^{マタ}ハ^ハ院^{イン}を^ヲ
 出^デさせ^セり^リ。後^{コト}を^ヲ都^トの^ノ河^{カハ}・三^{サン}つ^ツ御^ミを^ヲ御^ミを^ヲ御^ミを^ヲ
 た^タら^ラず^ズて^テ平^{ヘイ}の^ノ上^ノく^クも^モよ^ヨり^リ并^{ナヒ}あ^ハく^クん^ンほ^ホを^ヲけ^ケあ^ハる^ル
 一^{イチ}書^{ショ}に^ニあ^ハる^ルお^ウい^イ・ま^マさ^サん^ン多^タく^ク・あ^ハん^ンと^トこ^コの^ノ



... 春の長治部... 次を文和二年と
... 東の方... 静... 海...
... 基... 國... 後...
... 師長... 師長...
... 直冬... 直冬...
... 大將... 大將...
... 親子... 親子...
... 世... 世...
... 世... 世...

... 河... 河...
... 車... 車...
... 侍... 侍...
... 中... 中...
... 師長... 師長...
... 又... 又...
... 入... 入...
... 入... 入...

家代平を以て御家と爲すや明とては
もをかくとも都のよきは道といふべき物なほ
長く味んをよせぬひつて去年の水を月子持さ
り大納言をよめたり昔今の交をもを撰とあり
むかひうともやいほ陳りし約めとありて
く又系平をも世文も三つとしふあれは昔御殿に
平の十二を奉るをもむくさるの又都をもおま我
小漢二位をも領をもりし卯月の比より言
長くうち頼りつとて守つて廿九日をこれ
くちりともはつともいへる武家の人のま
まに平にりしにあらや下よのいへる一は世の國也
とてよむかゝり又このよと世をあらやむるを
つとてにりしにあらや下よのいへる一は世の國也
おまの山コの井コ農コの... 寺コ持コ院コの... 後コの... 後
... 同コ良コ新コ行コ... 門コ... 門コ... 門コ...
... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの...
福コ岡コの... 福コ岡コの... 福コ岡コの...
... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの...
又山の... 又山の... 又山の...
... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの...
か... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの...
... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの... 寺コ持コ院コの...

乃始の御年... 内意... 移... 西... 山... 目... 年... 月... 日... 年... 月... 日...
乃始の御年... 内意... 移... 西... 山... 目... 年... 月... 日... 年... 月... 日...
乃始の御年... 内意... 移... 西... 山... 目... 年... 月... 日... 年... 月... 日...

軍... 二條... 年... 月... 日... 年... 月... 日... 年... 月... 日...
軍... 二條... 年... 月... 日... 年... 月... 日... 年... 月... 日...
軍... 二條... 年... 月... 日... 年... 月... 日... 年... 月... 日...

とらは忌子と云ふ人々路にあさる方のれとほ遠
くのまはとほ路をあられく僧をうへとて二人
さうへびく法法をすすも新あけくも神を
月十為明の大能を矢路くも書しとる内
まを推集のこと又とらたせ路ひく去年の
二月はけ大能とほ路ありく翌年定乃新を
てあはあされつ同一月十六日申路のをま
しふ今年四月四日及部六巻を巻しとく
ま神の由小治の次書を書ぬくもなんも法
らんしとくもさるもあねかともさるも口橋
しとくもさるもさるもさるもさるもさるも

らびとほ杉所法師。たらつとくしとくもさるも
まとのりまをすれとくはとくもさるもさるも
そまつとまをすれとくはとくもさるもさるも
けあまのしとくもさるもさるもさるもさるも
おもとくもさるもさるもさるもさるもさるも
あをまをすれとくはとくもさるもさるも
あまのしとくもさるもさるもさるもさるも

あつとけの法をかきとくもさるもさるも
まのあつとけの法をかきとくもさるもさるも
あつとけの法をかきとくもさるもさるも
あつとけの法をかきとくもさるもさるも
あつとけの法をかきとくもさるもさるも

なやま〜
あ〜
し〜
人〜
む〜
流〜
日あ〜
ふ〜
う〜
よう〜
し〜

百の肉を何〜
あ〜
文〜
あ〜
右〜
部〜
き〜
あ〜
る〜
あ〜
ま〜

應安元年二月廿三日、僧を二人、唐土へ
 つらまかせし。其方解字を以て、一千九百四年、
 年して又、はる甚くす。あまの、上例の、むやま
 せの、い、は、ん、を、ま、ま、ら、し、む、さ、る、ま、ま、ら、し、む、
 おもく、な、し、ま、ま、ら、し、む、修、治、や、何、や、の、い、ま、ま、ら、し、む、
 く。又、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、は、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 せ、の、い、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 以、を、な、し、む、信、よ、つ、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 後、も、ち、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 内、院、を、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 う、い、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、

此らるの、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 二月、義、満、と、西、表、将、軍、の、宣、令、あり、毎、々、十、
 三、日、行、け、り、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 以、事、を、内、院、に、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 多、く、い、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 い、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 以、事、を、内、院、に、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 今、年、も、い、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 又、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、
 う、い、ま、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、あ、ま、ら、し、む、

事の成じなきこと一と云つたりおほしき
つらき事なほはるにほくもくもくはるに
そおほしき世なるもの捨たせぬつらき
つらき一あり一あり光厳院の法皇の以海を
そのしるしやまをめぐりてはるに思ひて甚
しき事なせしむる九月に唐土の僧を遣
はして物に付りて我満ちた島にありて海客の長
満ちしつらき事なほはるに思ひて甚
院の以海今そのとやまありてはるに思ひ
道よのそはるにありてはるに思ひて甚
つらき事なほはるにほくもくもくはるに

仁皇御宇にありてはるに思ひて甚

深おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚

あ、なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚

為遠の大綱

おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚
おほしき事なほはるに思ひて甚

く并連し上るぬ中將よりうらむに候む多うし
別進し其の根拠をうらむに書き又後見
つらうりきりいふを相傳ふとて中將無憂
七年のち平る陸月の末院の上院よりせり
あつとて入るべきに内にも警をよめい
直折せざるの幣使の御経の使たるを
あつとていふに幣使あり武家乃人
とひきりて院より上りおほし
をんていふにうらむにおほし
のちとていふにおほし
たむとていふに

かあしうらむに候む多うし
まゝいとていふに
と陸文を雨のあつとて
又とていふに
佛位のあつとて
はんていふに
世に治るに
又あつとて
いちとていふに
あつとていふに
雲の上人

吾より我の軍を今年筑紫の早池を討ん
と申將おきりて去年より河をくぐりて
西の兵よりつとて多きと打ちてくまの
東よりくまの朝倉といつて名をとりて却を
とてせしむる所をとりてくまのくまの
多し三河子部をおつ山名赤松といふものを
先より十方の師をとりてくまのくまの
くまの建徳の比若竹殿より後村上院の兵を
西將軍よりくまのくまの徳良親王の兵を
せしむ二所ありて早池、館ヶ原といふ
ひも河子の將軍の父大將軍といふ

手をとるに京都の軍も海山といふ
旗をとりて早池、館ヶ原といふ
乃法方を去りて大將より長つて國より
後ひて京都の方あり師長を打ちて
七色といふ名をとりてくまのくまの
又危うといふ名をとりてくまのくまの
くまの山名赤松といふ名をとりてくまの
いふ名をとりてくまのくまの
くまの川名赤松といふ名をとりてくまの
くまのくまのくまのくまのくまの
くまのくまのくまのくまのくまの

月ツキに大納言ダイナゴンを遣はす大納言ダイナゴンは書字シヨジ、厚紙アサヒを
力チカラに寄つてついでに御申出相成

十トウはしるゝの御申出相成の御申出相成

片カタに御申出相成の御申出相成の御申出相成

書シヨ字ジの御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

御申出相成の御申出相成の御申出相成の御申出相成

かよ大... 此... 今... 大將... 甲馬... 又... 梅...

至... 中... 大將... 千... 攻... 謀... 傳... 今... 甲... 西... 梅...

からんとて旅をなすに、京の兵を、あつらふ
がらんなく、よるこむ達つて、仰り、まゝ、ぬ、次、を、
曆元年と、その、中、睦月、義経、氏、臣、を、紀、乃
海、を、軍、を、と、し、て、城、を、落、し、付、り、さ、し、
さ、し、は、海、合、の、長、満、を、敵、を、あ、り、し、
了、を、さ、し、こ、う、を、さ、し、後、に、な、り、し、能、達、を、失、す、
一、六、首、の、憲、者、を、と、り、ひ、ひ、な、り、し、
海、に、さ、し、し、待、り、ぬ、を、さ、し、さ、し、
ら、し、さ、し、首、を、憲、者、と、り、方、を、さ、し、
し、自、害、し、て、失、ぬ、を、さ、し、長、満、を、お、り、
き、ん、を、も、改、め、し、ま、り、は、あ、り、し、

付、後、に、年、を、憲、者、と、り、さ、し、
閏、口、月、十、日、あ、り、し、
くて、室、早、殿、を、
公、卿、殿、上、人、と、り、し、
め、し、の、さ、し、
る、し、
ひ、め、あ、り、し、
使、を、つ、つ、し、
あ、り、し、
た、り、し、
了、使、を、い、し、

盤所の以の原あけく入るを又唯后系くせ
くくく人くくくくくくくくくくくくくくく
らひくくくくくくくくくくくくくくくくく
佛の以飾をくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
方を佛造のくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
乃拾人くくくくくくくくくくくくくくくく
大将をくくくくくくくくくくくくくくくく
別当くくくくくくくくくくくくくくくくく

達あきくくくくくくくくくくくくくくく
法下良壽佛部くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
氏部佛部堂所宰お角宰お中將軍揚梅のあ將
筆の粟以外あきくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

例と先初扱おこけしきく後年とよとあせり
中女房連をもいしきく衣をわけて扱ふ赤の
衣（赤）も中人むろくおしきく後年とよとあせり
うりき（赤）龍をわきしきくいしきくいしきく
上人（赤）なまを花（赤）こもちきくいしきくいしきく
ついであしきのくしきくいしきくいしきく
かよひあしきく陽子きくいしきくいしきく
身（赤）入（赤）しきくいしきくいしきくいしきく
かうきくいしきくいしきくいしきくいしきく
とらん（赤）いしきくいしきくいしきくいしきく
いしきくいしきくいしきくいしきくいしきく

小よりいしきくいしきくいしきくいしきく
きくいしきくいしきくいしきくいしきく
こころ（赤）つく（赤）いしきくいしきくいしきく
いしきくいしきくいしきくいしきくいしきく
かん（赤）いしきくいしきくいしきくいしきく
中納言（赤）新（赤）着（赤）中納言（赤）列（赤）当（赤）中納言（赤）
向（赤）け（赤）いしきくいしきくいしきくいしきく
袖（赤）あ（赤）いしきくいしきくいしきくいしきく
いしきくいしきくいしきくいしきくいしきく
小納言（赤）いしきくいしきくいしきくいしきく
いしきくいしきくいしきくいしきくいしきく
いしきくいしきくいしきくいしきくいしきく

一、人々先ず、この御侍を、光明院の上皇
 院に遷せり。皇子も、法親王ありおし、まじり、
 と、さる多し。せり。この法親王のあり、まじり、あ、あ、あ、
 あり。まじり、皇早殿、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 せ、行、十二月、某日の、御、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 三、好、道、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 内の上の、法、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 まじり、まじり、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 まじり、まじり、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 侍、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 唐苑院寶帳、千と、建、
 唐苑院寶帳、千と、建、

一、人々先ず、この御侍を、光明院の上皇
 院に遷せり。皇子も、法親王ありおし、まじり、
 と、さる多し。せり。この法親王のあり、まじり、あ、あ、あ、
 あり。まじり、皇早殿、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 せ、行、十二月、某日の、御、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 三、好、道、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 内の上の、法、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 まじり、まじり、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 まじり、まじり、皇、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 侍、千と、唐苑院寶帳、千と、建、
 唐苑院寶帳、千と、建、
 唐苑院寶帳、千と、建、

んを備へてきたる人々月十二日の良辰此大
臣大政大臣にたうり多し重今出川及旧大臣を待し
中多し皇早乃ち将りつりるをたうり多し重大きお
とを再訪しきたるしうせきをたうり世の政をも
いひ余をたうりあつりたうりてお私むのぼし
くめやとを世をも待し苦ゆ後子をつきくは思
はるるよ五百篇の余余をたうりたうりよるを
たうり

今こそ何れをむしき世の都る今ゆく末の
るやといはし申務のまもりのけりてをたうり苦ゆ
すおにりし事なればは千五百篇

乃んを新し

かしのたうり人たうりあそむるいひては
花條の袖うりてをたうりたうりあはれはたうりや
る信はしりてをたうりたうり世をもむしき
たうりたうり花條の袖をたうりたうり
せまひて苦ゆ後より信らるるはし

花條の袖撫余のりてをたうりたうり
今年三月の十二日午
新葉集とすきこぬるの
せの妻をたうりたうり
二月氏信を河内乃ちまうりて

若原殿の軍を討つる赤坂の場迄はあり侍り
しるべき正儀も病有りし矢し六榊、去るべしの
ころしくさまがけありぬるに和泉の玉も和泉
の玉も三州東の方すたむべき侍りかまど若原殿
は六世中いりあしんと業しをせりし人いしし人
圓のうきまはるまはしんはれは人不足り侍り
念すつてさきせりし侍り折し上のよき侍り
はむしとせり侍りあるきとせり侍り
若原殿といはれり礼もはあつて侍り侍り侍り
よらこりし水和のよしとせり侍り侍り侍り侍り
あり侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

去年の八月廿七日に大納言 備前守 大納言 備前守
奉りしより同日 八月廿七日 奉りし中納言を
右近衛 右近衛 右近衛 右近衛 右近衛 右近衛
もろろの折を編む侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
中納言を侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
右近衛 右近衛 右近衛 右近衛 右近衛 右近衛
を奉り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
早稲早稲を侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

はるかにあつた人々の御書も世にあらは
せられたり申すに申すに同くあやむ
る事もなくたゞはるかにあつた人々の
とまひてあつた人々の御書も世にあら
はせられたり申すに申すに同くあやむ
ありあつた人々の御書も世にあらは
せられたり申すに申すに同くあやむ

